

C-4					
主題	防災避難訓練を通じて地域住民と共に進める事業所作り				
副題	防災避難と地域住民を結びつける				
キーワード 1	防災避難訓練	キーワード 2	地域住民	研究(実践)期間	12ヶ月
法人名・事業所名	社福) マザアス日野 小規模多機能ホームみなみだいら				
発表者(職種)	田中仁章				
共同研究(実践)者	森中真佐樹、中村哲久、保住州干子(管理者)				
電話	042-594-5780	FAX	042-594-5781		
事業所紹介	東京都日野市にあります小規模多機能ホームみなみだいらは、自然豊かな山に恵まれ、近くには高幡不動尊があります。通い、泊まり、訪問を組み合わせ、利用者が日常生活を送れるようミーティングに力を注ぎ、ケアを理解し統一できるよう努めています。地域交流も活発に行い、地域と共に歩める事業所作りを目指しています。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>年2回以上行わなくてはならない防災避難訓練の実施ができておらず、実際、災害が起きた際の避難方法が確立していなかった。職員や利用者がどう動いて行動してよいのかわからない状態が発生しており、どのような準備をしてよいかも皆目検討がつかなかった。突発的に起きる災害に対する準備や知識、事業所としてどう対応すべきか職員の意識をどう図っていくか課題であった。</p> <p>また、事業所で展開されているケアが、事業所内で完結しがちであった。地域住民と関わりを持ちながら、事業所を知って頂き、どのような職員がそこで働き、どのような考えを持って取り組んでいるのか知る事により相互作用を持つ必要があった。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>いつ何時、災害が起きても対応できるだけのスキルを職員自身が身につけ、事業所として対応できる。</p> <p>防災災害訓練を通じて、災害等はいつ何時起きるのかわからないという危機感があるからこそ準備する必要性を感じ、利用者、家族、職員行動変容を促していける。</p> <p>地域住民と関わりを持つ事で、我々、職員と顔なじみの関係性を構築しどのような事業所であるのか、どのような考えを持っているのか知るきっかけとなり、互いに寄り添う関係性を築き、地域を交えたケアを展開できる。</p> <p>事業所運営が円滑にできる</p>					

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 年3回の避難訓練の計画
- 地区社協の会議に参加し、避難訓練の案内
- 利用者・家族に避難訓練のお知らせと参加のお願い
- 避難訓練実施
- 消防署に依頼し、消火活動訓練実施・アドバイス
- 地域住民参加時の訓練から得た課題を次の避難訓練で実施する（PDCAサイクル）
- 次年度の課題抽出

《4. 取り組みの結果》

- 年3回の避難訓練を実施する事ができ、避難経路も確定できた
- 3回とも地域住民に参加して頂き、車椅子を押して頂く等の役割を担い、主体的に動いて頂く事ができた
- 職員も防災避難に対する意識が定着し、課題が次から次へと出るためのPDCAサイクルができるようになった。
- 予算も踏まえて、何ができるかを考え実行に移す事ができた

《5. 考察、まとめ》

年2回以上の防災避難訓練を実施する事ができ、職員も防災に対する意識の変革や本番が来た時にどう動くべきかを考える事ができるようになった。地域住民とも名字を呼び合う関係性を構築する事ができ、小学校で集まる防災会議にも参加できるようになった。

来年度の新たな課題として取り組む事ができた。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

東京消防庁のホームページ
令和3年度介護保険改定について

《8. 提案と発信》

防災避難訓練だけなら事業所単位で可能であるが、そこに地域住民を交えて実施する事は至難の業である。ノウハウとまではいかないが参考になればよいと考えている。